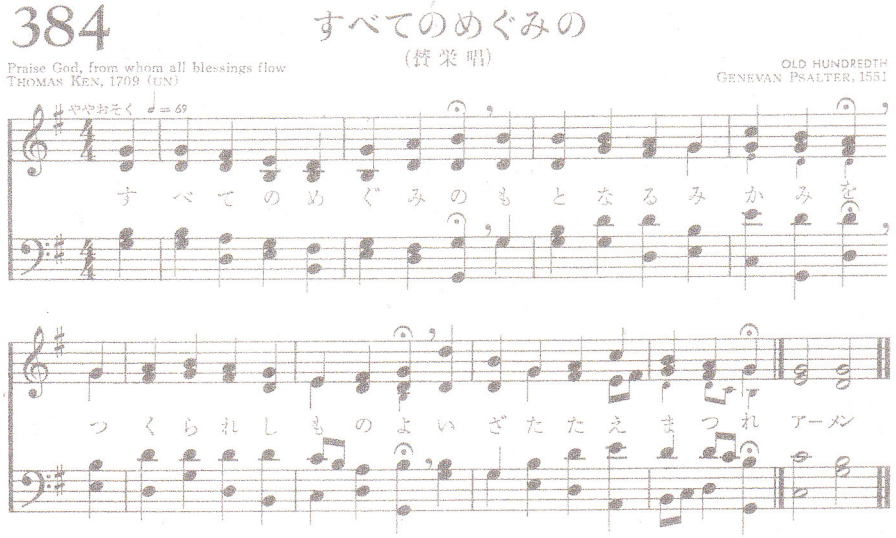
2010年1月3日　西宮市愛宕山にて

大村正夫召天『一周年記念会』

大村正夫 召天 『一周年記念会』プログラム

1. 賛美：十字架… 聖歌４５３「罪深きこの身を」 P.5
2. 使徒信条　唱和 P2
3. 祈祷
4. 追憶・所感・あかしの言葉
5. 賛美：復活 … 聖歌６６４「イースターの朝には」 P3-4
6. 聖書交読　新約聖書ルカによる福音書２３章３２－４３節 P4
7. 奨励　短いメッセージ
8. 賛美：再臨 … 聖歌６３４「世の終わりのラッパ」 P6
9. 主の祈り
10. 頌栄　　聖歌３８４「すべての恵みの」 P1
11. 祝祷



使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、乙女マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人の内よりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来りて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン。

主の祈り

天にましますわれらの父よ。願わくは御名を崇めさせたまえ。御国を来らせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いだしたまえ。国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

―あなたは今日、私と共にパラダイスにいます！―

■イエスさま、私の名前を覚えていてください！

最近ある方の臨終に立ち会うことになった。まもなく召されようとしていたが、まだ救われていなかった。身も心も苦しんでおられたが、医療処置以外誰も助けることができない状態だった。私は死を間近にしたこの苦しみのひとつは「自分が死後、どこに行くか分からない苦しみである」と思った。そして、私にはひとつの確信があった。「私たちには“主イエス”の名前が与えられている。今こそ、この名前を提供すべき時である。天国の入口の鍵を差し上げるべき時である」と。家族と親族がそばにおられ、少し気が引けたが、勇気をもって「Mさん、イエスさまを信じて天国に行きましょう！」手を堅く握って話すと、大きな目でじっと見つめ、強く握り返してくださった。それで「Mさん、今、心のうちでこのように念じるだけで良いのです」と語りかけた。すでに臨終の時が迫っており、耳は良く聞こえたが、もはや口はきけない状態だった。手を堅く握り、目を合わせ「イエスさま、Mです。私の名前を覚えていてください。よろしくお願いします。アーメン！」(ルカ 23:42)と念じてください、と語りかけた。その時、きらりと眼光を光らせ、強く手を握り返された。そこで、私は左手に水を含ませ、その手を額に置き祈りをささげた。「神様、このMさんを天国に迎え入れてください。天国にて私たちと再会できるようにしてください。アーメン！」Mさんは、阪神大震災から 14 年目、1 月 17 日の朝、エンジンの停止した飛行機が川面に滑走するかのように、静かに息を引き取られた。

■人間は死後、どうなるのか？

それで、人間は死後、どうなるのか。聖書の要約であり、小さな“組織神学書”である『ウエストミンスター信仰告白』第 32 章 1 項には「人間のからだは、死後ただちにちりに帰り、朽ち果てる。しかし彼の霊魂は(死にもせず、眠りもせず)不死の本質をもっているので、直ちにそれを与えられた神に帰る。義人の霊魂は、その時に完全にきよくされ、最高の天に受け入れられ、そこで、彼らのからだの全き贖いを待ちながら、光と栄光のうちに神のみ顔を見る。また悪人の霊魂は、地獄に投げ込まれ、大いなる日の裁きまで閉じ込められ、大いなる日の裁きまで閉じ込められ、そこで苦悩と徹底的暗黒のうちにあり続ける。聖書は、からだを離れた霊魂に対して、これら二つの場所以外には何も認めていない」とある。

シーアール企画
CREATION 53023 EP8820B